



Project Based Learning



Exhibition 2014

会期

2015年4月3日(金)-7日(火) 平日9:00-20:30 / 土曜9:00-17:00 (日曜休館/最終日は17時まで)

会場

多摩美術大学八王子キャンパス図書館アーケードギャラリー

JR 横浜線・京王相模原線 橋本駅北口神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」 / JR 八王子駅南口京王バス「急行多摩美術大学行」

主催

多摩美術大学 PBL 委員会

〒192-0394 東京都八王子市鎌水 2-1723 tel: 042-676-8611 fax: 042-676-2935

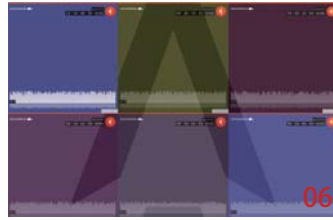


協力

ARTSAT Project / 株式会社王子パッケージイノベーションセンター / 株式会社竹尾 / 株式会社博報堂 / 世界紙文化遺産支援財団紙守
東京大学 / 日本赤十字社 東京都赤十字血液センター / 八王子織物工業組合 / 焼津市 (アルファベット・五十音順)

what's PBL?

多摩美術大学では、2006年度からプロジェクトに参加しながら学ぶ実践型・参加型のデザイン・美術教育として、PBL(Project Based Learning)科目を開講しています。この「PBL科目」は、学生が主体的に問題解決に取り組む学習を基本とし、各自の専門的なスキル(技術や知識)を総合的に活かす能力を身に付けることを目的としています。科目構成は、複数の領域に共通する基礎演習、各学科の専門分野に則した課題の提案、企業や自治体、各種団体との産学官共同研究、さらには既存の領域に収まらない実験的なものなど、実践的で多彩な内容となっています。



NEXT 八王子織物プロジェクト～ネックウェアの制作と展示～ [01]

八王子市は全国有数の絹織物産地ですが、近年は転換期を迎えています。この授業は、八王子織物の活性化を目指して、多摩美術大学の八王子織物工業組合、織物製造業者と共にその可能性を探る産学共同プロジェクトです。前期は八王子織物の現状を学びつつ、織物残布等を用いてプリントや絵を描く事により新たなネックウェアを提案しました。後期は織物製造業者と産地の技術を活かした新規性・遊び心のあるテキスタイルプロダクトとしてのネックウェアを製作しました。また研究成果物の展示を学外で行い、八王子織物の認知と次世代への継承及び普及を図りました。

「焼津の街おこし」を通じて習得するソーシャルデザイン [02]

静岡県焼津市の街おこしを具体的に企画し、実社会から学ぶ、実践型・参加型のプログラムです。授業では、焼津市独自の服飾文化である「焼津魚河岸シャツ」を起点にシティプロモーションを設計・実施しました。魚河岸シャツというプロダクトとそこに関連する人々から、この街の歴史・文化・風土のエッセンスを導き出してコンセプト化し、具体的な企画・デザインとして情報発信しました。「社会」をどうデザインするかという「ソーシャルデザイン」の考え方や、決められた手法にこだわらずに柔軟な発想によってプランニングし、アウトプットを生み出す「統合プランニング」のスキルを習得します。

サステナブルデザイン演習 [03]

この授業では、環境とものづくりの関係・サステナブルの考え方や、地球環境とこれからのデザインについて考察し、未利用素材を使った製品開発・作品制作に取り組みます。また、様々な気付きやアウトプットの機会を与えることで、考えを言語化し発表できるようにします。この講座を終えた後、学生がそれぞれの専門分野で制作活動を行う際の、発想の基準のようなものを提供できることを目指します。

パッケージデザイン基礎 [04]

包む・保護する・運ぶ・魅せる等、パッケージデザインの基礎的な知識をケーススタディを通して学び、それらをテーマにした演習・課題制作を行います。また、学んだ基礎を基にして、人とモノを繋ぐコミュニケーションツールとしての「パッケージ」をテーマにした課題制作を行い、パッケージデザインに対する発想力・構成力・表現力の向上を目指します。

和紙、漉きの研究講座 I・II [05]

前期は和紙ができるまでの行程を知り、紙を漉く技術の基礎を習得します。楮（こうぞ）や三椏（みつまた）などの伝統的な素材を用いて紙を漉き、素材の違いによる紙の質の差を体験します。さらに自分で漉いた紙で作品を制作することで、「紙漉」という伝統的な文化と「和紙」という素材を身近なものとして考えていく場を作ります。後期になると、前期で学んだ紙を漉く基礎技術の更なる向上のために、新たな紙の制作にチャレンジします。楮、三椏、麻といった伝統的な素材に加えて、新しい素材の可能性を模索することで、伝統を踏襲することを越えた多様な紙作りを目指します。最終的には、授業中に漉いた新たな紙で作品を制作することで「和紙」という素材に対する理解をより深めていくことを目的としています。

ARTSAT: 芸術衛星の運用と作品制作 [06]

2014年2月28日に打ち上げられた芸術衛星 INVADER をテーマに、衛星からのデータを用いた作品制作と、INVADER をモチーフにしたキャラクターデザインを行いました。さらに2014年12月3日に打ち上げられた ARTSAT2 号機・深宇宙彫刻 DESPATCH のプロモーション用アイテムを制作しました。授業の成果は、7月19・20日に開催されるオープンキャンパスで発表され、アンケートによって来場者から多くのフィードバックを得ることができました。

プレゼンテーション演習 [07]

情報を整理しそれを伝える一つの方法論としてのプレゼンテーションを学び、資料の作成を通して、作品制作とは違う表現方法について考察します。また、実際にポートフォリオを作成、さらにそれを作品化してプレゼンテーションを行います。そのような中でこれらのことが、社会における自らの作品・企画等のひろがりを持つに不可欠なことを認識していきます。

文化演出の現在 I (展覧会) [08]

学生が自分達の手で企画・出品・運営をする展覧会を開催します。企画の立ち上げ、ポスター・チラシ・DM の作成、広報活動や作品設置方法の考察、搬入・搬出作業等、授業内容は多岐にわたります。理論・制作・実施といった諸力がいかに「展覧会」というものを構成するのかということを実践に基づいて考察します。そのなかで展覧会の構造を探り、現代における展覧会の意味と在り方、その未来について考察・実践していきます。

五感を刺激するワークショップ実践 2014 [09]

五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）に働きかけるワークショップを学生自身が考案し実施することで、企画・プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高めます。前後期各1回、相模原市内の特別支援校の生徒を対象としたワークショップを行います。五感を体感するツールのひとつとしての、オリジナルアイマスクを制作することから授業はスタートし、コミュニケーションをテーマにしたワークショップを、グループワークで作成します。後期は体験型学習への理解を深め、五感を刺激する造形や表現をテーマにしたワークショップを行います。

エコ素材としての段ボールプロジェクト [10]

ダンボールの有効利用のための製品開発の提案を、王子パッケージイノベーションセンターとの産学共同プロジェクトで行いました。ダンボールはリサイクル可能なエコ素材なので、製品開発のための研究を通じて、これからのあるべきデザインについて考えていながら、地球環境とものづくりの関係、サステナブルの考え方について学びます。

バナナ・テキスタイル入門-素材研究 I [11]

廃棄されるバナナの茎から取り出した繊維を糸から布へ、あるいは紙へと変容させるプロセスを体験することができます。また、外部講師による特別講義を受講することで、地球環境の現状と造形素材との関係を理解し、持続可能な社会における美術やデザインのあり方についての考察を深めます。

バナナ・テキスタイル-紙からの造形 [12]

前半はバナナ繊維と、紙の材料になりうるのに捨てられてしまう繊維素材（紙屑やボロ布など）に着目します。学生各自が見つけた材料を使って、手漉きの紙の見本貼を制作します。未利用繊維資源を材料として使うことの意味を考えながら、自由に作品を構想し制作します。

日常で命の意味を問うプロジェクト 2014 [13]

社会における自らの存在意義への問いが、モノでも金でも名譽でもない文字通りのかけがえのない人道支援という行為に繋がっているといえるでしょう。美術大学だからこそできる大切なことの一つとして、資本主義のゲームに乗らない人道支援というジャンル。これに対して、アーティスト・デザイナーとして、トコトン考え抜き、答えを出していきたいと思えます。

パーソナル・パブリッシング I [フィジカル]・II [デジタル] [14]

Kindle や iBook などの電子出版システムの普及により、これまで社会的な行為だった出版が、急速に個人のものになりました。同時に、Zine やアートブックといったパーソナルな本をつくる運動も盛り上がりを見せています。前期の授業ではまず、アートブックというきわめて身体的なメディアを扱いながら、それを個人で出版することの意味を考察します。後期の授業では、前期で体験した本の身体性をベースに、実際に電子ブックを制作することで本の新たなあり方を模索します。

コミュニティーアート I

[アートラボはしもとプロジェクト] [15]

アートによる住民交流をめざす相模原市の文化施設「アートラボはしもと」で、受講生がオリジナルのワークショップを企画し、市民との参加交流を通じてアートの楽しさを伝えることを学びます。2014年度は「宇宙から虫ごへへ未体験の世界をしゃがんでみよう見上げてみよう」という展覧会を開催し、さまざまなワークショップを実施しました。

コミュニティーアート II

[相模原当麻地区・アートによるまち育てプロジェクト] [16]

圏央道のインターチェンジ開設にともなって再開発が計画されている相模原市当麻地区で、地域の自然と歴史とアートの視点を交錯させることで、住民と一緒に新しいまちづくりを考える活動を行いました。学生たちは「いまだからこそ揺れる当麻の姿」をテーマに、当麻地区の魅力を取めたドキュメンタリー映像を制作し、多くの住民を迎えた上映会が開催されました。